

児童・生徒の現状・課題

・「知らないことが分かる」ことの喜びは全学年で高く維持がされている。しかし、どの学年においても発表することへの苦手意識を感じている児童が多くみられる。

**学び続ける力を育むための重点目標**

低学年:自ら考え、選択して表現できる児童
 中学年:自分の意見に対して理由や事例を挙げて表現できる児童
 高学年:根拠をもって自分の考えを表現し、伝えられる児童
 特別支援:情報を正しく伝え、正しく聞き取ることができる児童

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	84.3	85.0	
②課題や疑問に対して、自分の考えをもったり、行動にうつしたりすることができる。	87.3	90.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	77.8	80.0	
②授業では、児童が選択した学びを、相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している	75.0	80.0	

具体的な手だて①

<課題設定の工夫>

子供たち自身が「話したい!」と主体的に学習に取り組めるように対話の必然性のある課題を設定し、学習の見通しをもたせる。

具体的な手だて②

<言語環境づくりの工夫>

安心して話せる言語環境を整え、自分と友達の考えを比較・関連付け、考えの修正や深める場を設定する。

具体的な手だて③

<思考を共有するための工夫>

メンバーや、思考ツールなど、学習内容の目的に沿って自分で選択できる機会を設ける。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・管理職の授業観察の際には、指導案を教員にもデータ等で配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。
- ・OJT等を定期的に行い、情報共有ができる場を設ける。

総括(5月)

本校では、学び意欲は高く、自分なりに考えを形成する姿が見られるようになってきたが、自分の考えを発表することや、自分の言葉で表現することに苦手意識をもつ児童が多いという課題がある。そこで、土台として安心して表現できる言語環境をつくり、思考を整理する支援や、言葉を引き出す発問の工夫、対話の必然性のある学習活動を通して、児童一人一人が自分の考えや思いを表現し、主体的に学び続ける力の育成を目指す。

総括(1月)